

## 育児における父親の役割に関する調査研究 (1)

### — 単純集計と両親の比較をとおして —

恒次 欽也<sup>1)</sup>・川井 尚<sup>2)</sup>・庄司 順一<sup>2)</sup>

Kinya TSUNETSUGU・Hisashi KAWAI・Junichi SHOJI

(特殊教育教室) (日本総合愛育研究所・愛育相談所)

### 1: 問題と目的

従来, 母子関係に関しては数え上げることも困難なほどの研究が積み重ねられ, その結果として, 母親(あるいは母性的人物)の役割はかなりはっきりしてきた。その中でもっとも大きな概念は Bowlby, J. による attachment (愛着) であると思われ, 今日の多くの乳児研究はこれの検証であるか, 乳児の早初期からの能力に着目したものであるといっても過言ではない。これに比べて, 父親の研究はその多くがここ10年ほどのものといってよい。そして, いまだ, 明確な父親機能が明らかにされたとはいえない。母子関係研究に比べてその歴史, 質量ともに圧倒的に違いがあり, また, 母子の心理—生理的出発と異なることから当然であるともいえる。

われわれのこれまで厚生省心身障害研究において平成4年度から6年度まで「少子化社会における母子保健事業に関する研究」班(日暮 眞主任研究者)の3年間にわたり, 父子関係, とくに小児保健, 母子保健に寄与することを目的に各種調査検討を行ってきた。父親の役割は, 父親自身の要因のみならず, 母親の育児行動や母子関係あるいは夫婦関係といった多くの要因の組み合わせの中にあると考えられる。従来の父親研究の多くは調査研究であるが, それもほとんどが父親への調査という形で行われる。そこで, 従来の知見を整理し, 質問項目をたて, 両親をともに調査する方法を採用した。その調査資料の分析により父親の役割を明らかにし, 保健指導の実際に寄与したいと考え, ここではそのための基礎データを報告する。

### 2: 方法ならびに調査項目

#### 2-1. 対象者

幼稚園, 保育園に通園する児や保健所の乳幼児健診の対象児の両親を対象とした。アンケートの配布・回収は園や保健所を通じて行ったが, 園は配布後1週間後に, 保健所の場合は予め郵送し, 健診時に回収した。配布数は両親1600組分で, 回収数は父親だけ, 母親だけを除いて両親1149組のペアであった(回収率約

72%)。両親には相談することなく, それぞれ独自に回答するように求めた。

#### 2-2. 対象者の属性

父親の平均年齢36.7歳(SD5.1歳), 母親は33.8歳(SD4.3歳), 対象児の平均年齢4.4歳(SD1.3歳, 0歳児から7歳児までで0歳児0.7%, 1歳児2.7%, 2歳児5.3%, 3歳児12.9%, 4歳児28.2%, 5歳児28.5%, 6歳児21.5%, 7歳児0.1%), 子どもの性は男子49.5%, 女子50.5%, 一人っ子は17.4%だった。家族の形態は核家族75.9%, 非核家族24.1%であった。母親の就労状況は常勤22.4%, パート17.6%, 専業主婦52.4%, その他7.6%(休職中など)である。学歴は父親, 母親の順で中学卒4.0%, 3.0%, 高校卒32.5%, 36.6%, 短大・専門学校卒10.0%, 39.4%, 大卒以上52.5%, 20.2%, その他1.0%, 0.8%であった。

#### 2-3. 調査項目の作成

本調査の前に, 予備調査を父親についてのみ実施した。その結果に基づいてフェース・シート分を除き41項目からなるアンケート(父親版, 母親版)を作成した。アンケートは次の6領域からなっている。

- I. 父親と育児・家事に関する領域
- II. 父親と子どもとの関わりの領域
- III. 父親の相談行動に関する領域
- IV. 父親自身の親及び家庭に関する領域
- V. 父親固有の役割に関する領域
- VI. 父親・母親の心身状態に関する領域

また, 父親への質問項目と母親へのそれとはほぼ一対一対応したものであるが, 自己評価とパートナー評価とが組み合わされている項目, 自己評価のみ, パートナー評価のみの項目などがある。

### 3: 結果

#### 3-1. 単純集計と両親の回答の一致性

上に上げた6領域にそつと以下に結果を述べる。なお, 3-1で両親の回答の異同についてふれているところがあるが, これらは, 両親の回答の一致度をクロス集計(行変数に父親の回答, 列変数に母親の回答)した結果から, その有意性(5%水準)が見られたも

のについて述べている。次節の3-2でとりあげている両親の違いは両親の回答の差の有無について検証した結果である。

### I. 父親と育児・家事に関する領域

休日父親の半数近くは(計44.8%)、家事、家族との外出、子どもと遊んでおり、そして母親とほぼ同じと評価している(44.2%)。(項目1)

乳児期の父親の育児参加は、風呂にいれる(75.8%)が第1位、以下、おしめかえ、買い物、子どもとの留守番が主で母親の評価と一致している。(項目13)育児参加への妻の希望について、全面協力(51.4%)、一部援助(46.5%)と受けとめて妻の希望は十分承知しているといえよう。(項目12)

現在の家族への協力は子どもとの遊び(61.6%)、以下、仕事をすることによって(38.5%)、重要なことの最終決定(36.5%)、家事(36.1%)、相談相手(30.8%)が主なもので、母親からみても上位3位まで同様である。(項目14)

育児の目標は父親、母親間でほぼ一致を見ている。第1位は健康(父87.6、母86.9%)、以下社会人として、毎日が幸せに、ひとり立ちできるように、楽しくつきあうが主なものであるが、母親の方が(37.3%)、父親よりも(19.4%)子どもを理解することに目標をおいている。(項目9)

父母間で育児の考えが異なるとき話し合いで調整は父64.6、母76.5%であり妻任せとするものは予想外に少ない。妻が口出しを嫌がる(4.0%)、妻自身口を出されたくない(1.6%)は数値は低いが父親が役割をとることについて問題となろう。(項目29)

### II. 父親と子どもの関わりの領域

朝食・夕食を子どもとともに毎日か週3・4回とっている父親はそれぞれ43.0%、55.0%、殆どないに等しいものは朝食20.9%、夕食5.6%であった。54.6%が子どもとよく遊んでおり、ないに等しい比率は8.0%であり、比較的父親は子どもと遊んでいるといえよう。

(項目2)子どもと積極的に遊んだり、お相手をするということになると、とても積極的8.2%、積極的15.5%、まあまあ積極的が60.7%であった。あまり積極的でないと積極的でないは15.6%にすぎず、大多数の父親が積極的であるといえる。(項目3)

この中でとても積極的・積極的に相手をする父親だけの限定質問では、教えたい、子どもが好き、心配といった子どもに関する理由が高率で、母親は私にいわれるから(11.3%)というが、父親は妻まかせにはいけない(21.7%)とより自発的である。また、仕事よりも育児の方が大切だとする父親がこの群では16.6%おり注目される。(項目4)

一方、積極的に相手をしない群のその理由は仕事(59.0%)が第1位、妻まかせが良い(35.2%)、子どもの相手は疲れる(23.7%)が主たるものである。妻

と子に入り込む余地なしは35%、母親自身もそう思っているものは3.7%あり、父親が除外されているところに問題があろう。また、母親は子どもに関心がないから(10.7%)というが、父親はそれほどではなく(3.1%)、こうした相違が生じる要因はどのようなことなのだろうか。(項目5)

反対に妻に育児を任せられない父親が7.6%、そして母親の16.1%に父親が安心して任せてくれないと回答しており検討すべき問題点である。(項目5)育児に自信がもてないという母親が50.1%いること(項目4)、そして父親が相談したい理由に妻が子育てに悩んでいるときが27.7%(項目23)といったことに関連しているのであろうか。一方、妻が自分に子どもを任せられるのは61.2%に対し、母親の78.8%で父親に任せて良いとしており、父親が思っているよりは信頼されている。(項目6)

子どもを理解できるかでは、妻は子どものことは自分にしかわからない、自分にしかできないと思う父親が27.3%あり、一方母親自身も29.5%がそうだとしているところに問題がある。(項目37)夫婦の関係からその理由を探る必要があろう。

乳児期からいまの年齢までの子どもの発達、子どもの性質、心身状態、あるいは情緒的、行動的問題等の認識では(項目15から18)、父親は母親とほぼ同じ認識を示し、子どもをよくみて把握しているといえる。

### III. 父親の相談行動に関する領域

子どもについての相談相手(マルチアンサー)は父親は87.2%が妻に、母親の89.3%が夫に相談しており、夫婦間でよく相談しあい、話し合われているようである。また、母親の相談相手は多様でその比率も高くsocial support systemを活用しているといえるが、この点、父親の相談相手が少ないことは父親への援助活動を考える際重要であろう。ただし、相談相手に職場の友人・上司が14.8%あり、この傾向が高まれば今後、子どものために休暇をきちんととることができるようになる等、父親の相談行動につながる事が考えられる。(項目19)

つぎに、子どもの心や行動のことで相談したい専門家及び相談機関を尋ねたところ、保育所・幼稚園の先生(66.1%)が第1位、小児科医(43.0%)、児相・教育相談所(33.4%)、カウンセラー(24.3%)、保健婦(14.4%)が主であった。子どもの送迎の機会もある保育所の育児相談の拡充も課題である。とくに母親はその順位は同じであるが比率は高い。(項目20)これは保育所機能の多機能性が求められており、とりわけ保母職の専門性が活かされることでもあり、保育所の今後の課題となっていることからである。

相談へでかける父親の物理的条件は日・祭日(47.7%)、土曜(21.1%)、夜6時以降(21.4%)の開設を望んでいるが、一方特に条件なしとするものが36%お

り、子どもの相談のためにはどのようにでも対応する父親が数多くいることに注目したい。(項目21) また、子どものことで妻と一緒に相談にいつでも良いとするものは68.7%、そしてこれまで実際に乳幼児健診にいったものは送迎のみ(15.8%)を除いて24.3%であった。母親に対し夫とともに相談に出かけるかは48.4%であり、母親をはじめとして専門家側が積極的に働きかければ父親の相談参加は相当期待できる。ところで父親は子どもが重い病気(58.5%)、原因不明の病気(69.3%)、理解しにくい行動(36.1%)の時に相談に行きたいとしているが、妻が子育てに悩んでいるときとするものが27.7%とわりと少ないことである。これは妻の子育てに対する傍観者的な態度が伺われるようにも思う。母親自身は子育ての悩みで相談したいものが48%あり、母親の育児不安をめぐってその父親の対応が問題となるところである。

また、育児・子育て教室の開設では妻と参加したい(15.3%)、妻が望めば(49.8%)と約半数が参加を希望している。夫とともに参加したいという母親も20.6%あり、保健所、市町村の保健センターでの父親学級、両親学級、育児学級等の開設が期待される。(項目31) さらに、育児のために必要な情報は病気(56.3%)、心に関するもの(43.9%)、育児・しつけに関するものが31.9%で母親と同傾向を示した。(項目25)

平成9年度から母子保健法の改正にとともに、乳幼児健診が全面的に市町村に移管される。つまり、一人の児(母子、家族含めて)を一貫してフォローしていく体制ができていくが、順調に推移すれば身近な子育ての相談機関として市町村保健センターが有効に活用されることになるだろう。

以上のように相談機関や専門家に相談することは少ないが、要望はあり、どのようにして専門家の相談ルートにのせていくかがこれからの課題であろう。

#### IV. 父親自身の親及び家庭に関する領域

子どもの頃の父親との関わりはよく(13.8%)、ときどき遊んでくれたが38.9%であった。あまり相手をしてくれない(36.8%)、殆ど話をしたことがないものが8.3%あり、半数は父親との関わりが少ない。それに対し母親の63.5%は自分の父親と遊んだ経験があると回答し、父—息子関係と父—娘関係との違いを示したといえる。一方、自分の母親とは69.4%がよく遊んでくれたとし、この点での違いはみられない。

自分の父親を父親としての良いお手本にしたいかどうかでは41.2%が思わないとし、妻が自分の母親をお手本とするもの80.4%と比べ大きな違いを見せている。(項目33)

自分の両親を夫婦としての手本に(項目35)、自分の育った家庭を手本に(項目36)したいかどうかでも、母親の方が父親よりもお手本にしたいとの回答が多かった。女性の方が妻、母という役割を自分の母親と

の関係で同一化しやすいのであろうが、母—娘関係〈モデル、友人関係〉と、父—息子関係〈ライバル関係〉のありようの違いなどが推測できる。今後検討すべき課題として残された。

#### V. 父親固有の役割に関する領域

父親の役割と考えられるものを選択肢とし直接回答を求めた(マルチアンサーなので合計は100%を超える)。その結果、父親は仕事を通して家庭に貢献する(73.6%)を第1位に、以下、子どもの社会化(70.5%)、妻の相談相手、精神的支持(68.1%)、そして家族を見守ること(53.4%)が上位を占めた。そして、母親もこれら4つを主要な役割として選択しており、一致している。ただし、母親の望む父親の役割の第1位は妻の相談相手・精神的支持(80.5%)であり、順位に違いを示した。母親にとっては父親の機能よりも、妻であり、母親である私を夫が精神的にサポートしてほしいということをも求めているものであり、注目できる。つまり、父親役割以前に夫役割があり、この夫機能が果たされることが妻の精神的安定をもたらす、結局は母親機能を高めていくことになるのではないかと推測される。今後、さらに精査すべき課題である。

また、父親による育児・家事の母親代行は夫は第8位30.4%、妻は第7位32.9%であり、単なる母親代わりの役割の比率は高いとはいえない。かえって、母親とは別個の父親としての育児・家事の役割を果たすとするものが夫第6位33.5%、妻第5位43.3%であり、父親独自の役割があることを示している。このことは父親固有の役割がないとするものが夫75%、妻5.4%と低率であることから明らかである。父親に対して単に母親がわりとしての、育児参加、家事参加を求めるのではなく、そこには父親らしい参加のあり方があるはずであり、それが模索されていかななくてはならない。

#### VI. 父親・母親の心身状態に関する領域

父親の心身状態では疲れているものが45.9%ともっとも多く、ついでイライラ(19.3%)、心配性(19.8%)であり、心身快調31.1%、心身不調は4.2%であった。一方、母親の心身状態はイライラが49.2%と第1位に、疲れている(40.4%)、心配性(33.3%)と多く、心身快調27.8%、心身不調6.0%であり、母親の方が心身状態がよくない傾向を示した。父親及び母親の心身状態は子どもの心身状態と強い相互関係を有しており、今後各領域との関連を検討したい。

#### 3-2. 両親の回答の比較

両親の回答の違いを検討するために、両親を行変数として各項目とのクロス集計を行い $\chi^2$ 検定し、5%水準以下で有意性がみられた内から主要な結果のみ以下にまとめる。前節と若干%が異なるのは集計法、その他、無回答等の違いである。

1) 母親の育児に対する自信(父親37.9%、母親11.1%、以下父親、母親の順に記す)や、母親(妻)の育

児に対する安心感(45.7%, 29.7%)は父親の方が高い。母親が育児を任せられ手探り状態で(多くの児が一人っ子)日々不安を抱えながら養育にあたっている直接の当事者(父親はこうした意味では間接的な傍観者に近いかもしれない)としては、夫はあまりにもものんきに信頼を寄せているともいえる。これがときには育児不安をまねきかねない要因となるだろう。

2) 自分と相手をそれぞれどのような親とみているかは、父母どちらも自己評価の方が厳しい傾向にあり、パートナー評価の方が positive にとらえていた。たとえば、父親では、「怒りっぽい」(30.2%, 22.7%, 下線は自己評価)、「やさしい」(53.6%, 66.0%)、「頼りになる」(27.4%, 42.4%)などであった。母親は、「口うるさい」(42.8%, 65.2%)、「怒りっぽい」(37.7%, 52.7%)、「きびしい」(28.1%, 32.4%)、「干渉的」(6.6%, 15.7%)、「やさしい」(55.8%, 41.6%)、「たよりになる」(31.2%, 20.1%)などである。ともに negative な項目は自己評価の%が大きく、positive な項目は母親による父親評価及び父親による母親評価の%が高かった。こうした negative な自己像(母・父親像)は育児不安やときには多罰的に向かえば子どもへの虐待へとつながる可能性を潜在的に示すものと注目される。positive な自己像と negative なそれとのバランスが必要であり、こうしたバランスが崩れそうなときに両親たちへの心理臨床的な保健指導が必要になるであろう。保健指導場面での心理職の導入が要請されるゆえんである。

3) 父母の日頃の様子については、「疲れている」は自己評価の方が頻度は高く(父親では:44.5%, 39.6%;母親では:39.8%, 51.3%)、「いらいらしがち」はパートナー評価の方が高かった(父親では:18.7%, 48.5%;母親では:37.9%, 14.9%)。「疲れている」と「いらいらしがち」との違いは、後者が対人関係(相手や子どもとの関係)の中で表される感情であることによる。パートナーのいらいらを感じているのは大事なことであり、むしろ、良いことであるといえる。

#### 4: まとめ—考察にかえて

文献的な検討等を含めた総合的な考察は今後の本資料の分析後に述べていくとして、ここでは一部考察を含めたまとめを述べたい。

1. 父親は実際に育児・家事を比較的やっていると見えよう。妻の育児への参加の希望も十分承知しており、家族への現実的な協力もし、その内容も妻の評価と一致している。育児目標も父母間で一致し、もし、育児についての考え方が異なったとき、よく話し合っているようである。ただし、育児について妻が口出しを嫌がる場合、父親がその役割をとることは難しいであろう。

2. 父親と子どもの関わりについて、食事をともに

とるものは40~50%、子どもとよく遊んでいるのも50%を越えて、おおよそ、父親の半数は、子どもとの関わりをよくもっているといえる。積極的に相手をする父親の、その理由は、子どもへの関心であり、妻にいわれる以上に自発的であることに注目される。積極的に相手をしない理由は、仕事の忙しさが第1位であるが、妻と子の間に入り込む余地がない、とする父親、母親が低率ではあるが、父親をはずしている点で問題がある。一方妻に育児を任せられない夫、そして、妻も夫が任せてくれない、というものもいて検討を要する。このことは、育児に自信がもてない母親が50%、そして、妻が子育てに悩んでいるときに相談にいききたいとする父親がおり、母親の育児不安との関連があるのかもしれない。いいかえれば、父親自身も妻の育児不安に影響され、あるいは自身から不安を抱えていることが予想されるのであり、母親の育児不安と併せて父親の育児不安、いいかえれば育児をめぐる家庭内不安(家庭内 risk)が今後の検討課題であり、われわれのグループでは今年度中に調査を開始する。一方、妻が子どものことは、自分にしかわからないと思っているとする父親、そして、妻自身もそうだとするものがない、母親が子どもを自分だけで抱え込んでしまうとすれば、父親がその役割をとることは難しい。夫婦の信頼関係に問題があるのか、検討課題である。子どもの乳児期から現年齢にいたるまでの発達、性質、心身状態、情緒・行動問題について、父親はよく認識し、把握していることが、母親のデータにより明らかになった。自ら子どもと関わり、また母親との話し合いの成果であろう。むしろ、学童期以降の方が夫婦間の communication のあり方としては問題かもしれない。

3. 父親の相談行動について、まず夫婦間でよく相談しあい、話し合いがもたれているといえよう。夫婦以外では母親の方が相談相手が多様であり、父親の相談相手が少ないことは父親への援助活動を具体化する際考慮すべきことである。職場の友人・上司に子どものことで相談する父親がおり(14.8%)、この傾向が高まれば子どものために休暇をきちんととれる等相談行動につながるものが考えられる。その相談行動への物理的条件として日祭日、土曜、夜6時以降の開設が望まれているが、しかし、特に条件がないとするものが36%みられた。また妻と一緒に相談にいきこうという父親(68.7%)も多く、乳幼児健診に参加したのも24.3%おり、積極的に働きかけを行えば父親の相談参加が相当期待される。父親の相談動機の中で子どもの病気が高率であるが、注目すべきは妻が子育てに悩んでいるときとする父親の存在もある。母親自身もこの悩みで相談したいとし(48%)、先述の育児に自信のない母親が多く、母親の育児不安をめぐって父親の相談参加に大きな意義があると考えられた。また、父親は子どもの心や行動に関する情報を求めており、従って、乳

幼児健診、保健指導での父親の役割は子どもと母親の心の領域での相談が主要なものとなろう。

4. 父親自身が自分の父親や一父親として、両親一夫婦関係一、そして育った家庭をお手本としないものが半数近くみられた。彼らの父親のその時代の社会的背景の影響であろうか。父親は子どもの社会化への道具的役割を果たすとの知見からみて、今後検討すべき重要な課題である。

5. 父親固有の役割として、父親は仕事を通して家庭に貢献することを第1位に選択し、子どもの社会化、妻の相談相手・精神的支持、そして家庭を見守ることが上位を占めた。母親もこの4つの役割を選択し、同一見解を示したが、ただし、妻の相談相手・精神的支持を第1位に選択し、この点での相違を見せた。先述の父親の相談行動が母親の育児不安をめぐってのことであること、あるいは家庭内での重大な事柄の決定者・提案者について両者の間に10%のずれがあり、父親の役割を夫婦関係との関連から検討することは今後の重要な課題であろう。

また、本調査からは、単なる母親の代行としての家事・育児は父親の役割ではなく、その独自の役割があることが示された。

6. 父親は疲れており(45.9%)、ついでイライラと心配性が続き、心身快調31.1%、心身不調4.2%であった。一方、母親はイライラしがちであり(49.2%)、疲れている、心配性、そして、心身快調27.8%、心身不調6.0%と、母親の方が心身状態がよくない傾向を示した。父親及び母親の心身状態と子どもの心身状態とは強い相互関係を有しており、各領域との関連を検討する中で、父親がその役割をとることに心身状態がどのような影響を与えているのかを検討したい。

7. 父母比較で有意差がみられなかったのは現在の子どもの性質(項目16)、現在子どもの心配なことの内容(項目17)、子どもの最近のようす(項目15)、乳児期における父親の育児参加の具体的な内容(項目13)など子どもの現在の状態や、具体的な内容であった。逆に、自分(父親)や相手(母親)のようす、あるいは育児等の考え方、子どもの乳児期のようすなどは、

父母の回答に有意な差がみられることが多かった。つまり、父母の比較では回答差のない項目の多くは子どもについてで、両親の子どもを見る目には差がない。父母が子どもに関してよく話し合っているものと考えられる。

## 5：今後の課題

父親及び母親の心身状態と子どもの心身状態とは強い相互関係を有しており、各領域との関連を検討する中で、父親がその役割をとることに心身状態がどのような影響を与えているのか等を今後検討していきたい。本資料に関してさらに、児の年齢構成別、性別など種々の属性間の相違や、項目間の関係について詳細な分析を加えていきたい。また、今回調査に限らず、多くの父親研究は乳児期に偏っている。本調査をうけて父子関係、父親役割、母親からみた父親のあり方等が児童期、思春期、青年期と子どもの年齢の上昇に伴い、どのように変化していくか、また、父親が乳幼児期の父子関係を回顧することであるべき父親像がみえてくるものもあろうかと思われ、今後の課題としたい。

### 備考：

1. 本研究は平成3から6年度厚生省心身障害研究「少子化時代に対応した母子保健事業に関する研究」(日暮 眞主任研究者)の研究費によるものである。
2. 本論文の一部は上記報告書、日本小児保健学会(1995年大会(水戸市)、1996年大会(長崎市))でも報告した。

### 参考文献

- 1) 川井 尚ほか 育児における父親の役割Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 厚生省心身障害研究「高齢化社会を迎えるに当たっての母子保健事業策定に関する研究」(平山宗宏主任研究者)平成元年、2年、3年度報告書、1990-1992。
- 2) 川井 尚ほか 育児における父親の役割と保健指導に関する研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 厚生省心身障害研究「少子化時代に対応した母子保健事業に関する研究」(日暮 眞主任研究者)平成4年、5年、6年度報告書、1993-1995。

(平成8年9月11日受理)

## 項目1 休日の過ごし方

	仕事の続き	家事を手伝う	自分の趣味	家でのおんびり	家族と外出	子どもと遊ぶ	その他
父親	7.6	11.3	19.4	26.5	22.5	11.0	1.7
母親	7.8	13.4	19.5	27.0	24.4	6.4	1.5

## 項目3 子どもの相手

	とても積極的	積極的	まあまあ	あまり・消極的
父	8.2	15.5	60.7	15.6
母	12.8	18.0	54.8	14.4

## 項目4 積極的な理由

	他にいない	子に教えたい	妻にいわれた	子どもが好き	妻任せは厭目	子どもが心配	仕事より大事	その他
父	4.0	65.0	3.2	80.9	21.7	32.5	16.6	7.9
母	13.7	51.3	11.3	87.5	20.6	22.1	9.3	7.2

## 項目5 消極的な理由

	しなくてよい	余り感心ない	妻に任せるといい	妻が望まない	仕事が忙しい	子ども忙しい	趣味等忙しい	妻の用に入れない
父	3.5	3.1	35.2	0.9	59.0	3.1	18.5	3.5
母	7.0	10.7	17.3	1.9	62.6	1.9	27.1	3.7

	疲れる	その他
父	20.7	5.7
母	41.1	9.3

## 項目6 育児について

	項目	思う	やや思う	あまり	思わない
父	妻の育児の自信	37.9	46.6	14.3	1.1
	妻の育児の安心感	45.7	46.7	7.1	0.5
	育児を任せられるか	23.1	38.0	32.5	6.4
母	育児の自信	11.1	45.8	40.2	2.9
	育児の安心感	29.7	54.1	14.8	1.3
	育児を任せられるか	29.4	44.3	20.9	5.4

## 項目7 自分はどんな父親(母親)か

	きびしい	おごりっぽい	口うるさい	やさしい	あまい	頼りになる	がんこ	感心ない
父	31.5	30.6	21.5	54.3	41.0	27.8	7.4	2.9
母	31.1	23.0	19.0	66.9	38.2	42.9	6.4	5.4

	干渉的	友達のように	叱れない	その他
父	4.3	26.6	2.8	0.7
母	5.2	26.4	6.0	1.3

## 項目8 妻(夫)はどんな母親(父親)か

	きびしい	おごりっぽい	口うるさい	やさしい	あまい	頼りになる	がんこ	感心ない
父	28.6	38.4	43.6	56.9	21.5	31.8	4.2	0.6
母	32.7	53.0	65.7	41.9	25.9	20.3	3.1	0.2

	干渉的	友達のように	叱れない	その他
父	6.7	18.4	1.6	0.9
母	15.8	23.7	0.6	0.9

項目10 日頃の様子

	疲れている	意欲がない	いらぬしが	ゆううつ	几帳面	心配性	居場所がない	体系的
父	45.9	2.5	19.3	2.7	18.1	19.8	2.6	0.9
母	40.4	2.8	49.4	4.1	16.5	33.3	0.6	3.2

  

	生まれぬ	食欲ない	熟睡できない	さびしい	冷静	のんびり	心身快調	心身不調
父	13.5	1.3	4.8	1.3	20.9	32.9	31.1	4.2
母	13.1	0.5	9.5	2.5	7.9	29.4	27.8	6.0

項目11 妻(夫)の日頃の様子

	疲れている	意欲がない	いらぬしが	ゆううつ	几帳面	心配性	居場所がない	体系的
父	41.4	2.1	39.2	2.1	15.0	18.2	0.2	2.6
母	52.5	4.0	15.3	1.5	17.1	8.4	1.7	0.7

  

	生まれぬ	食欲ない	熟睡できない	さびしい	冷静	のんびり	心身快調	心身不調
父	14.6	1.2	7.9	1.5	8.7	26.5	27.1	3.4
母	19.5	0.9	4.5	0.1	32.8	27.3	28.8	3.5

項目13 育児, 家事援助

	おしめかえ	食事の世話	お風呂	寝かしつける	着替え	食事の用意	掃除, 洗濯	子と留守番
父	43.7	20.2	75.8	33.4	34.7	10.3	14.7	22.1
母	42.9	21.6	76.9	28.8	38.0	10.9	17.4	35.0

  

	妻の相談相手	送迎	買物	他家族の世話	あまりしない	その他
父	28.8	20.5	36.4	4.3	12.2	1.2
母	36.2	19.4	41.2	9.4	11.9	1.6

項目14 家族への協力

	仕事専心	家事の手伝い	相談相手	大事を決定	子どもと遊ぶ	身辺の世話	とくになし	その他
父	38.5	36.1	30.8	36.5	61.6	18.3	7.7	0.8
母	40.3	31.7	37.3	39.9	66.2	20.1	5.4	1.3

項目16 子どもの性質

	明るい	元気	内気	泣き虫	甘えんぼう	おしゃべり	神経質	のんびり
父	76.5	79.8	17.7	35.0	66.5	54.1	17.9	16.3
母	77.2	81.5	16.8	32.3	69.8	56.0	18.4	21.6

  

	おちつきない	心配性	がんこ	几帳面	完全産	しつこい	暗い	こわがり
父	23.6	7.8	31.7	11.4	3.9	16.3	0.3	34.6
母	22.6	10.2	29.6	13.8	2.4	18.8	0.3	33.9

  

	人見知り強い	よく分らない	その他
父	11.7	0.7	1.2
母	11.5	0.8	2.8

項目17 子どもの癖

	指しゃぶり	おねしょ	言うこと聞かない	遊び上手でない	乱暴	餌食	夜泣き	登園嫌がる	外で話さない
父	14.6	9.9	14.5	6.2	4.3	17.8	1.1	2.3	4.8
母	16.2	11.1	13.7	4.8	3.5	17.9	0.8	2.2	4.4

  

	男, 女らしくない	ひとく筋がる	小食	落ち着かない	つめかみ	茶当りきりよくない	その他	とくになし
父	2.6	3.6	14.0	4.0	3.9	4.3	3.4	39.4
母	3.3	3.1	11.0	2.7	7.6	4.1	6.7	35.2

## 項目18 G一人見知り

	あまりしない	ふつう	つよい	わからない
父	36.3	48.1	14.0	1.6
母	36.6	45.3	18.0	0.1

## 項目19 相談相手

	妻・夫	両親	きょうだい	親戚	友人知人	幼稚園の先生	医師	相談機関
父	87.2	44.0	17.1	8.3	28.8	10.0	11.0	2.3
母	89.3	64.9	33.9	6.0	64.8	34.9	15.5	4.6

	心理相談	近所の人	職場の人	親の会	子の友達の子	その他	いない
父	0.4	3.9	14.8	0.3	2.6	1.7	3.3
母	0.9	14.7	9.3	0.5	31.2	1.1	0.4

## 項目20 相談したい機関、人

	幼稚園の先生	保健婦	小児科医	児童相談所等	心理相談	民間相談所	職場の相談室	その他
父	61.1	14.4	43.0	33.4	24.3	11.0	2.7	3.9
母	67.5	22.9	48.9	32.4	32.3	16.8	1.4	1.9

## 項目21 相談所開設日条件

	日、昼日	土曜	夜6時以降	職場休暇制度	特に条件なし	その他
父	47.7	21.1	21.4	10.6	36.0	3.0
母	38.3	18.1	12.8	9.3	46.4	4.8

## 項目22 相談にでかける時

	妻(夫)と一緒に	一人で	妻(夫)任せ
父	68.7	6.3	25.0
母	48.4	51.3	0.3

## 項目23 相談するような子どもの状態

	重い病気	原因不明の病	理解しにくい	ひどい癖	言うことを聞かない	妻(自分)が怪我	その他
父	58.5	69.3	36.1	14.9	9.3	27.7	1.9
母	52.7	60.2	49.0	20.7	8.9	48.0	1.2

## 項目25 必要な子育て情報

	病気	育児、しつけ	子どもの心	その他
父	56.3	31.9	43.9	2.3
母	57.6	41.1	58.4	1.5

## 項目29 夫婦で育児観が異なった時

	いつも妻任せ	私の思うよう	話し合う	妻は口出し嫌	その他
父	21.5	9.0	64.6	4.0	0.9
母	3.3	17.5	76.5	1.6	1.1

## 項目30 乳幼児健診への参加

	一歩も出かけた	未だけて	送迎した	妻任せ
父	24.3	3.3	15.8	56.6
母	18.2	2.9	15.8	63.1

項目31 子育て教室への参加

	妻・未と参加	妻が望めば	父親教室	妻が参加
父	15.3	49.8	9.2	25.8
母	20.6	37.5	12.9	29.0

項目33 自分の親を父親（母親）の手本としたいか

	思う	やや思う	あまり	思わない
父	19.5	39.3	30.2	11.0
母	34.0	46.4	15.8	3.8

項目35 自分の両親を夫婦のお手本としたいか

	思う	やや思う	あまり	思わない
父	17.6	36.1	34.3	12.1
母	18.6	41.5	31.4	8.5

項目36 自分の育った家庭をお手本にしたい

	思う	やや思う	あまり	思わない
父	16.4	36.9	32.4	14.3
母	22.4	38.6	28.3	10.7

項目37 妻にしか子どもはわからない

	思う	やや思う	あまり	思わない
父	5.2	22.1	45.8	27.0
母	4.9	24.6	49.2	21.3

項目41 父親の役割

	母親の目代り	育児家事分担	経済的保証	指導と決定	主導的役割	相談相手	自立の援助	母子の援助
父	30.4	33.5	73.6	34.6	14.4	68.1	70.5	32.8
母	32.9	43.4	72.6	26.2	13.9	80.5	67.5	41.9

  

	家族を見守る	儀礼的役割	母子と距離	自分らしく	男らしさ示す	固有役割なし	その他
父	53.4	14.5	7.1	3.2	11.3	7.5	1.3
母	66.6	17.6	9.7	1.0	16.8	5.7	0.4